

## 構想の柱3

### 文化教育施設として日本国内のオンリーワンを目指す動物園

#### ◆ 施策 9 動物園における環境教育の充実

「京都市生物多様性プラン」に掲げる生物多様性の啓発や京都議定書で定められた地球温暖化対策の理解を深めることはもとより、SDGs（持続可能な開発目標）の課題等、動物園に求められる教育のニーズが高まっていることを踏まえ、動物園における環境教育の充実を図る。そして、実際に生きている動物を見て深く学べるという利点を活かし、市民一人ひとりが「生物多様性」や「環境保全」を自分ごととして捉え参画していくことを支援し、環境意識が向上する場となることを目指す。

##### 具体的なアクション

- ① 国際希少種、国内希少種の繁殖を進め、種の保存を通じた生物多様性保全への寄与。
- ② 京都市環境審議会、生物多様性保全検討部会及び生物多様性庁内会議への参加による、次期「京都市生物多様性プラン」の実行と普及啓発。
- ③ 京都精華大学や嵯峨美術大学・嵯峨美術短期大学、環境政策局地球温暖化対策室等との連携による、園内の資源を活かした普及啓発事業。
- ④ NPO等外部団体との共同企画による環境教育事業の展開。
- ⑤ 教育プログラムに基づいた、園内における環境教育の普及の促進。
- ⑥ 子どもからお年寄りまで幅広い世代が学べる生涯学習の促進。



(事例：SDGsの17の目標)

#### ◆ 施策 10 「きょうと☆いのちがやく博物館」事業（4園館連携）の推進

京都市動物園、京都府立植物園、京都水族館、京都市青少年科学センターが連携する「きょうと☆いのちがやく博物館」事業により、生物多様性を楽しく学ぶ機会を市民に広く提供する。

##### 具体的なアクション

- ① 連携する各園館で主催する普及啓発事業の発展・充実。
- ② 京都市生物多様性プランの普及啓発。
- ③ 4園館連携を基盤とした市内の科学系博物館との連携の推進。



(事例：京都府立植物園でのワークショップ)



## 現在の取組

### 「きょうと☆いのちかがやく博物館」事業（4園館連携）の実施

- ・京都市動物園・京都府立植物園・京都水族館の3園館が、「いのちかがやく」を共通のコンセプトに掲げて連携し、次世代に向けた京都の自然環境の継承及び体験・啓発等を調和させ、地域や社会の活性化に一層貢献していくことを目的に、平成27年(2015)3月に「包括交流連携協定」を締結した。さらに、平成28年(2016)3月には、「京都市青少年科学センター」が加わり、4園館連携として発展させた。平成29年度(2017)から環境政策局環境企画部環境管理課も事業に加わっている。
- ・4園館のそれぞれが担当する普及啓発イベントに連携各園館スタッフが参加するほか、連携する園館の展示への協力を開始している。



共通コンセプト	「きょうと☆いのちかがやく博物館」
事業項目	(1) かけがえのない生態系に関する事業連携 (2) 次世代への京都の自然環境の継承及び体験・啓発 (3) 幅広い情報発信と職員交流の推進

## 施策 11 京都府立植物園との政策と事業の融合・連携の推進

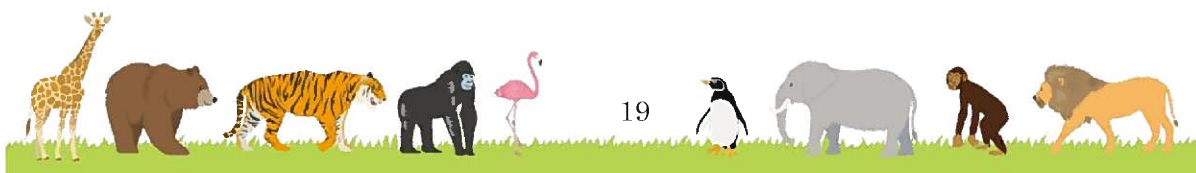
京都府立植物園との連携の一環として、政策と事業の融合・連携による取組として、新たな事業協力や共同での普及啓発活動を推進する。

### 具体的なアクション

- ① 共同シンポジウム等の開催を通じた生物多様性、環境保全の啓発推進。
- ② 植物園由来の木材・草本を本園展示に活用、動物の糞を原料とする肥料を植物園で活用する等、展示における連携。
- ③ 動物園・植物園で共同した教育旅行（修学旅行等）やインバウンドの誘致。



(事例：植物園由来の木材を活用した環境エンリッチメント)



## 施策 12 国内外の実習生の受入れによる教育の場の形成

国際的協力の実践として、シドニー大学やエジンバラ大学などからの獣医学実習生の受入れをはじめ、国内各地の大学から学芸員実習等の多様な実習生を積極的に受け入れ、国内外の教育の場としての動物園を目指す。

### 具体的なアクション

- ①シドニー大学やエジンバラ大学等の海外からの獣医学実習生への教育の提供。
- ②京都大学との連携に基づく海外研修生の受入れ。
- ③国内各地の大学から学芸員実習等の多様な実習生の積極的な受入れ、教育の提供。



(事例：京都大学の海外研修生をガイド)

### 現在の取組

#### 実習生及び体験実習の受入れ

- ・大学生を対象とした様々な実習生の受入れのほか、学校又は教育委員会からの依頼を受けて中学生の体験学習（生き方探求・チャレンジ体験）及び高校生の職場体験プログラム等を行っている。

## 施策 13 京都市立芸術大学との連携等、文化を発信する場としての機能向上

京都市立芸術大学をはじめとする芸術系大学、その他の文化芸術団体等とも連携を図り、文化を発信する場として動物園の機能を高める。

### 具体的なアクション

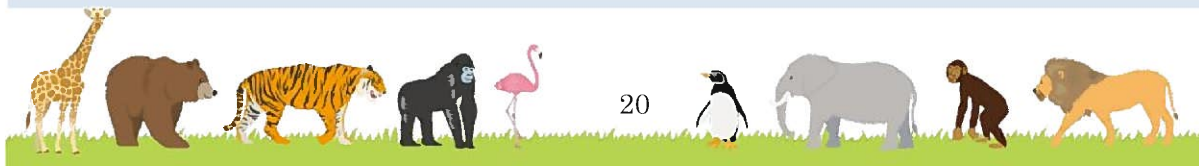
- ①京都市立芸術大学、京都市京セラ美術館との連携（動物画の企画展の実施や製作等）。
- ②芸術家グループや芸術系大学等（京都精華大学、嵯峨美術大学・嵯峨美術短期大学、平安女学院大学、京都造形芸術大学等）との連携。
- ③「KYOTO STEAM—世界文化交流祭—」<sup>注</sup>において、アート・サイエンスのコラボレーションプログラムの実施。
- ④音楽コンサート等のイベントの実施による文化に触れる場の創出。



(事例：芸術団体との共同企画による展示)

#### 注 KYOTO STEAM—世界文化交流祭—

文化庁補助事業「文化芸術創造活用プラットフォーム形成事業」を活用し、京都・日本を文化・芸術の交流のハブへと進化させていくための取組。「KYOTO CULTIVATES PROJECT」の理念を文化芸術の新たな可能性と価値を世界に問う新しい形態の「国際的な文化・芸術の祭典」。STEAMとは、Science（科学）、Technology（技術）、Engineering（工学）、Art（芸術）、Mathematics（数学）の略。





## 施策 14 世界に向けた研究成果や動物園の取組の発信

国際環境エンリッチメント会議（ICEE）の京都大学との共同開催や世界博物館会議（ICOM）への参画を契機とし、国際的な学術集会において研究成果の発表や本園の取組等を伝え、世界の舞台上で活躍する動物園を目指す。

### 具体的なアクション

- ①国際霊長類学会，国際応用動物行動学会等，英語を公用語とする動物研究に関する国際会議への参加と発表。
- ②世界動物園水族館協会（WAZA）<sup>注</sup>総会への出席と世界の加盟園館との交流の推進。

### 現在の取組

#### 世界動物園水族館協会（WAZA）への加盟園の一員としての活動

- ・平成30年（2018）5月に世界動物園水族館協会（WAZA）へ加盟したことにより，国際的に認められた動物園であることをPRし，希少動物の導入や持続可能な繁殖，教育・研究の取組を更に進める。
- ・国内では，現在，本園のほか，（公社）日本動物園水族館協会（JAZA），東京都恩賜上野動物園，東京都多摩動物公園，横浜市緑の協会，埼玉県こども動物自然公園，大阪市天王寺動物園，名古屋市東山動物園，ふくしま海洋科学館，千葉市動物公園の9団体が加盟。

#### 注 世界動物園水族館協会（WAZA）

World Association of Zoos and Aquariums の略。昭和10年（1935）に設立した「世界動物園長連盟」を母体として発展し，平成12年（2000）に現在の「世界動物園水族館協会」となった。動物，種，生息環境の保全と持続可能性のために，世界中の動物園と水族館の潜在的可能性を達成する。動物園と水族館の世界的な共同体としての，コミュニケーション・プラットフォームとして機能している。



## 施策 15 学校教育の素材としての動物園の活用の推進

大学や教育委員会、環境教育団体等と連携し、学校教育の素材としての動物園の活用を推進する。

### 具体的なアクション

- ①教育プログラムに基づいた学校向け教育素材の提供（動物の生態や環境問題を伝えるコンテンツ等）。
- ②「大学のまち京都」の特性を活かした、地域の自然や環境問題を幅広い世代に伝えていくことができる人材の育成。
- ③新学習指導要領に対応し、主体的かつ対話的に深い学びが得られるようにする。また、生徒だけでなく教師が活用できる事前学習教材の開発に努める。



(事例：京都精華大学の環境教育活動の様子)

### 現在の取組

#### ①講演の実施

- ・教育機関や各種団体向けに動物園や動物に関する講演を実施しているほか、各種教育資料の提供を行っている。
- ・また、閉園後に正面エントランス1階の図書館カフェを利用して、参加者の皆様と様々な話題をお話しするイベント「夜の図書館カフェ DE トーク」も開催している。



(レクチャールームでの講演の様子)



(夜の図書館カフェ DE トークの様子)



## ②サマースクール等の実施

- ・ 小学3年生から高校3年生までを対象に、普段は体験できない動物舎の清掃等の動物たちの飼育体験やその生態について学ぶことができるサマースクールを夏休み期間に開催。
- ・ 高校生以上を対象に、飼育体験（動物舎清掃や餌作り等の体験）や、動物園について学ぶこと（動物園を知るための話、普段は入ることのできない施設の見学等）のできる「一日動物園体験」を開催。



(サマースクールの様子)

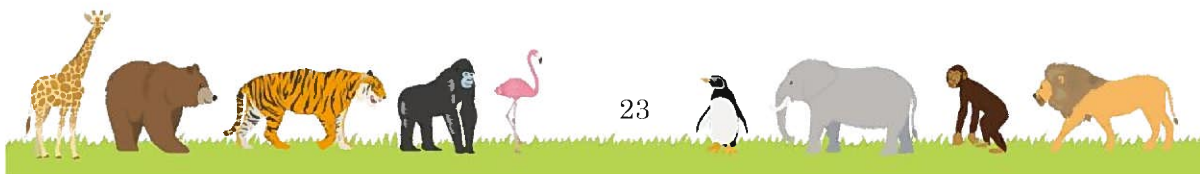


(一日動物園体験の様子)

## 教育プログラムについて

- ・ 教育機関や市民向けのイベント、講演会、実習等の取組を総称して教育プログラムとし、野生動物の調査・研究で得た成果を教育機関や市民に教育プログラムを通して還元しています（P 26で提供可能な講演や教材を紹介しています）。

(教育プログラムのチラシ)





### ③なかよし教室

- ・「動物に触れることにより、命の大切さや温かさを感じる」、「動物を間近で観察し、触れることにより、動物についての知識を深める」ことを目的とした、団体向けのプログラム。
- ・おとぎの国エリアで、テンジクネズミやウサギをなでたり、ヤギにエサやりをすることができる。年間約9,000人が利用している。



(なかよし教室の様子)

### ④絵画コンクールの実施

- ・夏休み期間中の小学生を対象に、園内の動物や風景を題材にした「小学生動物画コンクール」を開催している。授賞式の開催、入賞作品の展示等を行っている。

○題 材：本園内の動物又は風景

○応募資格：京都市内に在住又は市内小学校に在学する小学生



(入賞作品の例)

## 動物愛護の啓発も行っています！

### 動物愛護週間事業

- ・動物愛護週間を定めた「動物の愛護及び管理に関する法律」の趣旨を踏まえ、動物愛護と適正な飼育及び保護についての関心と理解を深め、動物愛護や保護の気風を高めることにより生命尊重や情操教育の高揚を図ることを目的として、(公社)京都市獣医師会の主催により、本園共催で実施しています。



((公社)京都市獣医師会イベントの様子)



(動物慰霊祭の様子)



## 様々な枠組みで実習生を受け入れています

### 将来の担い手の教育の場を提供

- ・本園では、獣医や学芸員を目指す大学生を実習生として受け入れています。英語での受入れも可能という強みを活かし、海外の大学からの実習生を受け入れているのは、国内でも数少ない取組です。
- ・また、学校又は教育委員会からの依頼で、中高生の職場体験等も受け入れています。

### 【実習生の受入れ実績】

区分	対象	実習内容
博物館実習 	大学において博物館学講座の単位を取得又は取得予定者で、当該大学から依頼のあった方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本園の概要と役割等についての概説と施設見学</li> <li>・飼育員の行う動物飼育業務についての実習</li> <li>・本園で行っている調査研究・展示・資料保存等の各業務に関する講義・実践</li> <li>・企画・交流事業についての講義・実践等</li> </ul>
獣医実習  	大学において獣医学課程を学ぶ者（4年生以上）で、当該大学から依頼のあった方  オーストラリア・シドニー大学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・野生動物のハンドリング及び検査・診療・解剖技術に関する講義及び実践</li> <li>・本園の概要と役割等についての講義</li> <li>・本園で行っている調査研究・展示・資料保存などの各業務に関する講義・実践等</li> <li>・平成26年度からオーストラリア・シドニー大学獣医学の実習受入れ施設として協力している。</li> <li>・受入れ実績：20名（うち1名はイギリス・エジンバラ大学）</li> </ul>
飼育実習 	自然科学系の学科を専攻している専門学校生及び大学生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動物飼育，動物舎の整備・修繕，環境エンリッチメントの実践，調査・研究，広報・啓発活動等</li> </ul>
救護実習 	自然科学系の学科を専攻あるいは卒業，当該大学からの依頼あるいは卒業を証明できる方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・野生鳥獣救護センターにおける業務</li> </ul>

### 【中高生の受入れ実績】

区分	実習内容
中学生体験学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・飼育体験や園内作業等</li> <li>・調査・研究活動</li> </ul>
高校生職場体験	<ul style="list-style-type: none"> <li>・飼育員や獣医師等，動物と関わる仕事を目指している高校生の職場体験</li> </ul>



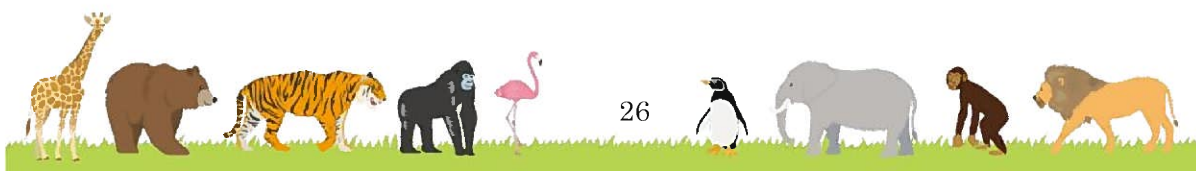


## 学校や市民の皆様に御提供できます！

- ・本園では、教育機関や各種団体向けに動物園や動物に関する講演を実施しており、近年では年間200件近くの実績があり、教育機関としての役割も果たしています。
- ・閉園時間後に、正面エントランス1階の図書館カフェに各方面の専門家を招き、参加者の皆様と気軽な雰囲気の中でお話しするイベント「夜の図書館カフェDEトーク」も開催しています。最先端の科学から、ベテラン職員による昔の動物園の思い出、動物にまつわる芸術作品等、多彩なテーマを取り上げています。

### 【教育プログラムの中で提供可能な講演や教材】

手法	テーマ	タイトル
講演	動物の保全	動物たちの現状
	動物園の取組	動物園の仕事
		動物園で学ぶSDGs
		動物園の役割
		動物園の見どころ
		動物園研究
		ツシマヤマネコの保護増殖事業
	動物の生態	動物の暮らし
		日本の自然と動物
	動物の体とくらし	動物の赤ちゃん
		動物のうんち
		動物の骨格
	命のつながり	ゾウの肥料
動物園と疏水の関係		
園内ガイド	動物園の取組	動物園の見どころ
		動物園研究
	命のつながり	ゾウの肥料
		動物園と疏水の関係
講義実習	動物の体とくらし	骨格標本を組み立ててみよう
資料提供	—	小学校2年生国語「どうぶつ園のじゅうい」京都市動物園編
		生活科学習支援「どうぶつのうんち」
		英語学習支援
		クイズ 等



【夜の図書館カフェ DE トークの開催（令和元年度（2019）の実績）】

テーマ	ゲスト
ヤクスギの森に住むニホンザルの暮らし	京都大学霊長類研究所准教授 半谷吾郎
海外のゴリラ飼育に触れて&キンタロウの誕生	京都市動物園種の保存展示課 安井早紀
ボノボの老化は人間より早いのか？	京都大学霊長類研究所非常勤講師 柳興鎮
アムールトラの域外保全 ～動物福祉と環境エンリッチメント～	京都大学大学院理学研究科修士課程修了 岡桃子
クマノミとイソギンチャクの共生関係を支えるしくみについて	京都大学野生動物研究センター特任研究員, 理学博士 幸島和子
ゴリラのお勉強 ～ゴリラはどれくらいできるのか！？～	京都市動物園生き物・学び・研究センター長 田中正之
動物園をもっとおもしろく	動物園ムードメーカー・zoojo（ズージョ）
心拍と体温から探るナマケモノの省エネ生活	奈良教育大学自然環境教育センター／ 京都大学野生動物研究センター 村松大輔
キリンはどれだけ眠るのか	京都市動物園種の保存展示課係長 高木直子 京都市動物園生き物・学び・研究センター 主席研究員 山梨裕美
キリンの夜の授乳事情～京都市動物園のキリンの 母仔のビデオ観察からわかったこと～	大阪大学大学院人間科学研究科・日本学術 振興会特別研究員 齋藤美保 京都市動物園種の保存展示課係長 高木直子
世界でいちばん高いところに暮らすネコ：ユキ ヒョウ	京都大学野生動物研究センター・twinstrust 木下 こづえ

※令和2年2月までの実績です。

